



一般社団法人
宮崎県介護支援専門員協会
会長 牛谷 義秀

―会長挨拶―

ケアマネみやざき発行に寄せて

令和7年6月14日宮崎県介護支援専門員協会の総会は皆さま方のご支援ご理解のもと無事に終了し、新しい年度が始まりました。今年度もよりしくお願い申し上げます。日頃から、「介護の司令塔」として行政や病院などさまざまな関係者と連携し、利用者に寄り添ったケアマネジメントを実践されている皆さまに於かれましてはたいへんお疲れのことと存じます。

さて、この一年の間には令和の米騒動など、物価高騰に伴う日常生活に直結した問題や、地震・豪雨といった自然災害など、生活そのものの継続が困難となる出来事がいっっぱい起こりました。これらの自然災害に際しても、生活の基

盤が安定するまで、ご自宅や避難所などに派遣されるケアマネが、災害関連死などを防ぐ上で大きな役割を担っており、これらの問題に光が当たる中、ケアマネの存在感が制度外にも大きく広がっている状況が明らかになってきました。ひとたび起こると、自分のことはさておき、利用者の生活支援にあたってくださっているケアマネの仲間がいっぱいいらっしゃいます。しかしながら、平時はもとより、このような非常時にさらなる力量が求められるながら、「人材確保や処遇改善などの課題」に対する国の対応が遅々として進んでいないと理解しています。

この一年で本協会が取り組んだ課題とその成果を皆さんとともに振り返ってみたいと思います。まずは、人手不足が深刻化している現状を踏まえ、資格を持ちながらアクティブでない潜在ケアマネジャーの皆さんの復職のきっかけ作りができないかの調査を県に懇願しております。また、今年度実態調査が始まります。また、法定研修受講に際

して経済的負担の軽減を図るために県議会議員・県福祉部とともに各市町村に働きかけ、県内各地で実現してきています。さらに時間的負担・移動負担の軽減のためオンライン研修を実施しています。また、主任ケアマネの受講資格が一律に実務5年以降になっていますが、市町村の推薦が得られればある研修を経て3年で資格獲得に結び付ける解釈ができるよう、県や宮崎市で検討していただいております。さらに「ケアマネの業務負担拡大にもかかわらず、「賃金格差」に代表されるその冷遇が他産業や介護分野の他の職種より見劣りする処遇となってしまうていることが人材不足の深刻化、居宅介護支援事業所の減少に直結している」ことから、日本介護支援専門員協会とともに、自民党の日本ケアマネジメント推進議員連盟を介して5月29日、処遇改善を強く訴える要望書を厚生労働省に提出しております。次の介護報酬改定を待たず物価高騰・経費増加に見合う介護報酬を考えるよう訴えました。

今こそ、潮目が変わる時ではないかと期待しております。不合理を正し、業務に見合った適切な報酬を得て、就労条件を改善できるよう、国に訴える活動のために奔走しています。結果、厚生労働省は近年の物価高、全産業平均の給与水準の動向を注視しつつ、ようやく「処遇改善を推進していく」と説明してくれました。みんなで組織を挙げて国を動かしましょう。

昨今のケアマネ数の減少は、介護保険制度のみならず、幅広い社会機能をマヒさせてしまう大きな懸念事項です。ケアマネ人材のすそ野の拡大は、国民の暮らしのセーフティネットを支えることに等しいとなれば、少なくとも早急な処遇改善や実務負担の軽減が不可欠と考えます。私たちはこれからも利用者の「自立支援・重度化防止と当事者の尊厳保持」のために、介護保険の本来の目的に向かって、ぶれることなく、みんなで力を合わせて頑張ってまいります。引き続き、会員の皆さま方のご協力をお願い致します。



令和7年度 宮崎県介護支援専門員協会 総会が開催されました

令和7年6月14日(土)宮崎市にあるJA・AZMホール2F大研修室で「令和7年度一般社団法人宮崎県介護支援専門員協会総会・講演会」が開催されました。当日は、令和6年度事業報告および収支決算についての審議と、令和7年度事業計画および予算についてご報告いたしました。

議長のスムーズな進行、そして皆様のご協力のもとすべての議案が承認されました。誠にありがとうございました。



総会終了後、講演会が開催されました



**役員一同
今年も頑張ってます！**

総会終了後、講演会が開催されました。大分大学福祉健康科学部准教授の志賀信夫氏に「生活困窮者の理解と支援、関連制度のマネジメントの実践」をテーマに講演いただきました。

志賀先生は、社会福祉学、貧困理論、社会政策を専門とされており、貧困理論や社会開発について日々研究されています。また、日向市の「子ども未来応援会議(子どもの貧困対策会議)」において副会長を務められています。今、世界的に格差社会が問題視されています。格差社会とは、所得、資産、教育、雇用、健康、生活環境などの面で、個人や集団の間に大きな差がある社会をさします。今回は、志賀先生に貧困とは何か、人権や生活保護制度などについて詳しく話を聞かせていただきました。

私たち、介護支援専門員は、目の前の利用者の暮らしをより良くするための個別援助技術はもちろんですが、その背景にある、メゾ、マクロの視点も持って、コミュニティ・ソーシャルワーク(地域援助技術)を展開できるスキルを持たなければならないのだと改めて痛感しました。

第16回JCMA九州沖縄ブロック研究大会inながさがが開催されました



令和7年3月22日(土)に長崎市にある長崎ブリックホールにおいて「第16回日本介護支援専門員協会九州沖縄ブロック研究大会inながさが」が開催されました。『「ケアマネジメントをカスタマイズしよう」～業務改善で介護支援専門員を魅力ある職に～』がメインテーマでした。

当日は、会場とオンラインを併用したハイブリッド型で開催され、合計445名(第1分科会:221名、第2分科会:147名、第3分科会:70名)が参加しました。

宮崎県からも多数の会員のみなさまがご参加されました。ご参加された会員のみなさまありがとうございました。

午後からのシンポジウムは、『人員不足の渦中、介護支援専門員を魅力ある職とするためには?』をテーマに、厚生労働省の秋山氏が講師・助言者を務められました。実践報告では、当協会理事である川崎智志さんが「実務研修受講試験促進について」当協会での取り組みについて大変すばらしい報告をしていただきました。介護支援専門員が、魅力ある職となる未来を想像できる時間になりました。

第19回一般社団法人日本介護支援専門員協会 20周年記念全国大会が開催されます

令和7年11月1日(土)、2日(日)に「第19回一般社団法人日本介護支援専門員協会20周年記念全国大会」が東京国際フォーラムにて開催されます。

介護保険制度が施行され、四半世紀となり、これまでを振り返りながら、これからの介護支援専門員の未来を考える良い機会になるのではないのでしょうか。

この記念全国大会を盛り上げるために、全国各地においてメッセージ動画が作成されることとなっています。当協会においても現在作成を進めているところです。こちらもぜひ、お楽しみにお待ちいただければ幸いです。



第19回 一般社団法人日本介護支援専門員協会 20周年記念全国大会

2025.11.1-2 東京国際フォーラム



時代を担って、次代を拓く
～つなごう介護支援専門員の未来～

一般社団法人 日本介護支援専門員協会

Japan Care Manager Association

参加費用の負担軽減により、多くの会員へ学びの場を提供し、介護支援専門員の資質向上の底上げを行うこと、また、日本協会の活動に参加する機会を提供し、職能団体の目的や重要性について理解できる会員を増員することを目的に、研修参加費の助成(半額:5000円)を行っております。詳細は、ホームページでご確認いただけます。助成の申請を希望される方は、事務局までお問合せください。



ケアプランデータ連携システム フリーパスキャンペーンについて



会員のみなさまの事業所では、ケアプランデータ連携システムを導入されているでしょうか。すでにご存じでしょうが、ケアプランデータ連携システムとは、ケアマネジャーとサービス提供事業所間でやり取りされる、サービス提供票(予定・実績)を紙媒体ではなく、データ上で

やり取りするシステムで、ケアマネジャーの業務負担軽減、ひいては人材確保を目的に導入されたシステムです。ケアプランデータ連携システム導入にあたっては、通常、年間で21000円のライセンス料がかかりますが、**令和7年6月1日より、フリーパスキャンペーン期間中は1年間のライセンス料が無料になります。**申請期間は令和7年6月1日から令和8年5月31日までとなっています。(申請日からの1年間無料で使用できる)

下に、ケアプランデータ連携システムについてのURLとQRコードを掲載しますので、一度ご確認ください。

<https://www.kokuho.or.jp/system/care/careplan/>

ケアプランデータ連携システム | 国民健康保険中央会



介護支援専門員・相談支援専門員への処遇改善を要望する署名活動について、7月10日配信の日本協会メールマガジンによると、7月3日時点(途中集計)において24万筆を超える署名が集まったとのこと。

宮崎県においても、署名用紙での署名だけで7790筆となりました。(オンライン署名は除く)

今後は、集まった署名数をもって、厚生労働大臣への申し入れと、国会会期中に国会議員を介して、衆議院議長、参議院議長への請願を予定しているとのこと。沢山のご協力、誠にありがとうございました。

『伝えようケアマネの「声」届けようケアマネの「思い」』ケアマネの処遇、報酬についての議論は市町村や県ではなく「国」で行われています。介護支援専門員の発言力を高めるために、日本介護支援専門員協会の組織率を向上させましょう。ケアマネを守るのは、ケアマネしかいません！』これは、協会役員の名刺の裏面に書かれたメッセージです。これからのケアマネジャーの将来の道しるべを作るのは、現在ケアマネジャーとして勤めている私達です。

共に声を、思いを届けていきましょう。

宮崎県協会の会員数の動向 R7.7.現在

ブロックネットワーク別	正会員	準会員
延岡・西臼杵	180	1
日向・東臼杵	119	0
西都・児湯	122	0
宮崎・東諸県	582	5
日南・串間	135	0
都城・北諸県	214	0
小林・えびの・西諸県	84	0
県 外	3	0
合 計	1439	6

編集後記

会員のみなさま、毎日の業務おつかれさまです。今年は、梅雨明けが例年よりも早く、暑い日が続きますが体調など崩されていないでしょうか。
さて、こんな暑い日に食べたくなるものはなんでしょうか？
冷たいかき氷、はたまスタミナのつく鰻でしようか。暑いからこそ、汗をかきながら辛い物を食べるのもいいですね。かくいう私は、冷や汁でしょうか。県外出身である私にとって、初めはなじみのないものでしたが、今となつては、夏に欠かすことのできない食べ物のひとつです。
この広報誌がみなさまの手に届くころは、暑さが更に厳しい日々になつていると思われまふ。暑さを乗り切るために、しっかりと栄養を取っていきましょう。さて、そろそろ冷や汁づくりの準備に取り掛かるとします。

今別府 大作